

令和5年3月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

社会・経済活動がコロナ前に戻りつつあり、人と物の動きが活発になってきたことから、飲食業・旅館業等のサービス業や食料品製造業等を中心に、多くの業種において売上が増加してきた。

しかしながら、一方で、原材料費や電力料金等の高騰による収益の悪化や人手不足による経営への悪影響が続いていることから、3月期の景況DI値は横這いとなっている。

今後も原材料費等の高騰が続くと見込まれ、また、物価上昇が消費活動を停滞させるのではとの懸念もあるなど、先行きは不透明な状況が続いている。

山口県の主要指標 DI 値（令和5年3月末現在）









※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：7.5% 悪化：36.3% DI 値：▲28.8% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：21.3% 減少：31.3% DI 値：▲10.0% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：6.3% 悪化：38.8% DI 値：▲32.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年3月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲25.0	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲50.0	▲12.5	▲33.3	▲37.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲50.0	▲20.0	0.0	▲36.4	0.0	▲100.0	▲23.0
							

全 体
▲28.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	卵の価格が前年から2倍近く上昇し、4月からマーガリンも値上げされると聞いている。原材料の値上がりはすべてに渡り、燃料費も下がることはなく厳しい状況が続いている。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	売上は3%増加しているが、光熱費の高騰や原材料の値上げにより収益が圧迫している。	パン・菓子製造業 下関市
	地元で昔より続いている湊祭りを強化する組織作りに着手することになり、漁師の減少に少しでも歯止めがかかることも期待している。水揚げの減少が続いており原材料の魚価が高騰している。人手不足が深刻である。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍での業況は、前年同月比で動き自体はよくなっている模様だが、ここ最近の光熱費の高騰、人件費の上昇等は、中小企業にとって厳しい状況である。補助金等で補える範囲ではないので早く落ち着いてほしい。	水産食料品製造業 下関市
	マスクの義務化が撤廃され、ようやくコロナが収束に向かいだした。既に3月の売上が大きく伸びてきている。次々とイベント等の再開が発表され、令和5年4月からはその影響が大きく出てくることが期待される。安堵すると同時に、再び感染拡大とならぬよう、日常から気を引き締めていきたい。	食料品製造業
	コロナ感染症もほぼ収束し飲食店等も通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。米価については引き続き低迷し、原油価格の大幅な上昇とロシアのウクライナ侵攻による原材料不足による肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げを拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。ロシアがウクライナに侵攻し1年以上が経過したが、全く終息する気配もなく、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。中国からの輸入に頼っているリン酸の価格も上昇し、肥料価格が前年比150%アップという驚異的な結果となった。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、対策の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。電力不足が不安視されているが、電力の安定供給は、社会の安定に必要な不可欠であるので、安全性が確認された原子力発電を積極的に活用するなど、脱炭素社会の実現にむけた努力を進めてほしい。今年度からインボイスへの対応が求められるが、併せて電子帳簿保存法への対応も必要となる。	精穀・製粉業
繊維工業	コロナウイルス感染者数の減少で、人と物の動きが活発になってきた。各メーカーとも新商品企画に意欲的に動いている模様。	外衣・シャツ製造業

木材・木製品	<p>組合の木材供給の活動は皆無。土地、木材、建材等全てを取り扱う大手メーカーでは、各種高騰中の現在でも、ある程度の仕事量がある模様だが、木材取扱が中心の地方中小工務店では、建材他各種値上がりに対応できず、施工主も様子見をしているため、新築は無く、リフォームの仕事が少しあるだけである。</p>	製材業・木製品製造業 岩国市
	<p>当組合でコロナウイルスの影響が出始めた時期は令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和2年3月に比べ15%の減少、コロナ禍の令和4年3月と比べ10%の減少だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している。先月と状況は変わらず需要は減少傾向で、収益についても依然として停滞が続く状況。</p>	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	<p>年度末で突発的な受注もあり、工場の稼働が増えて売上も増加したが、用紙代や副材料費の値上がりで収益は横ばい。令和5年度も値上げが続くようで、業界はますます厳しい状態となりそうである。</p>	印刷業 山口市
	<p>コロナにより中止、または延期されてきたイベントや行事が軒並み再開され、日常が戻りつつあると実感できているが、4月より多くの食料品や生活用品の値上げが予定されており、国民生活は物価上昇の影響を受け、消費の冷え込みに繋がるのが懸念される。印刷業界も、原材料の上昇に伴う企業収益悪化の状況が続いている。</p>	印刷業 下関市
窯業・土石製品	<p>1月に値上げを実施したが、調査会価格は、実績が少ないため、値上がりしていない。早めに、実績を提示して現況に合う価格で発注してもらえよう活動中である。</p>	コンクリート製品製造業 防府市
	<p>「令和5年4月頃セメント値上げ」の打診が各メーカーからきている。今回は、コンクリート製品のタイムリーな値上げの実施を切に願っている。公共工事の発注量の大幅な減少により、今期の業績回復は、ほぼ不可能だと感じている。</p>	コンクリート製品製造業 柳井市
	<p>出荷量は、前月比118%、前年同月93%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。</p>	生コンクリート製造業
	<p>お彼岸で、墓地に上がれない高齢の方や地元を離れた方からの清掃依頼が多い。砂やバラス等の建築資材も値上がりするとのこと、数年前と同じ作業内容でも、最近の見積金額はかなり値上げをせざるを得ない状況。</p>	石工品製造業
	<p>3月の市内小売りの売上は、前年比で増加。全国旅行支援や萩市の観光クーポンの恩恵もあると思われる。首都圏での百貨店の催事では苦戦が続いていて、コロナ前の数字には回復せず、売上は年々減少傾向にある。萩焼3社が参加の「陶磁器フェア（3/23～27、於：福岡マリンメッセ）」での売上はコロナ前の数字に戻ってきている。新規に開催された「全国暮らしの器フェア in 姫路（3/30～4/3）」に萩焼2社が参加したが、入場者数や売上が予想を大きく下回った。陶器フェアで最近よく目にするのは、中国系の外国人バイヤーが店舗内で、商品紹介のライブ配信をし、その場で1回に数十万円の買い物をするなど、大口の発注をすることもある模様。</p>	陶磁器・同関連 製品製造業

一般機器	3月は、例年通り年度末の駆け込み注文があり、年度内完成の案件等で忙しい状況であった。カーボンニュートラルに伴うエネルギー関係と医薬関係等の新規設備投資案件で忙しくなる中、プラント設備の老朽化に伴う修繕、建替え案件も耳にする。これから忙しくなる傾向にあると思われるが、対応できるほどの人材がおらず、人手不足が益々深刻化する。	一般機械器具製造業 下松市
	年度末で設備工事が少ない上、原材料の高騰で顧客も予算が取れずに工事が中止になっている。購入品の入手難は変わらず、納期が確定しないため工程が組みにくい。その他製品の材料費は高値で安定しており、受け入れる所と設備投資を先延ばしの所とがある。鋼材、電気料金、溶接・溶断消耗品、副資材等の価格高騰が、販売価格に転嫁できない状況で推移している。人手不足は解消されず操業が落ちている会社もある。アフターコロナで少しずつ仕事量が増加してくると思われ、4月からは営業活動に注視する。小さい会社の経営者はいつも心配事がたくさんあるが、それでも「不変」と報告している。	一般機械器具製造業 防府市
	円安は落ち着きを見せ金融情勢は安定してきてはいるが、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高、資源不足が企業収益に大きな影響を及ぼしている。貿易収支も大幅な赤字が続いており、これに関連して電気、ガス料金にとどまらず、物価のアップは中小企業にとって大きな負担となっている。早急に元請企業の発注単価の改善が必要。大手企業の賃上げが進む一方、中小企業の賃上げはままならず、賃金格差は広がるばかりで、人材の確保が困難な状況である。外国人の人材確保でも、日本の低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがあり日本は脱落気味である。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。	一般機械器具製造業 宇部市
	原材料価格や光熱費の高騰が改善されない限り、大きな変化は見られないと思われる。	
輸送機器	鉄道車両関係の現状は順調に推移しているが、令和6年度から受注量は減少すると思われる。原材料費や電気料等の高騰により収益は悪化。半導体製造装置の部品製造業においてやや陰りが見え始め、受注量が減少しているものもあり、引き続き今後の受注動向を注視したい。従業員確保及び技能継承には苦労している。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	保管料金の値上げと海産物の入出庫が大幅に増加したことにより、倉庫売上は前年及び先月より増加した。電気料金値上げ分の補填でき、3月においては通常の利益を確保できた。	乾物卸売業
	水揚げ量が減少している。運賃・箱代他経費の高騰で取引条件、収益が悪化。夏場は底引き網の休漁もあり、更に水揚げが減るので夏場が心配である。	生鮮・魚介卸売業
	商品価格の高騰により売上に影響が出ている。	各種商品小売業

小売業	1～3月は例年売上が伸びない時期ではあるが、「マスク着用は個人の判断、新型コロナウイルスの5類への引き下げ」などによりアフターコロナに向けて少しずつ進むと共に市場が活性化することを望んでいる。最近では口元のリップやチークなどが少しずつ売れている状況。これからは、市場の活性化や売上増加のためには、「最良の店を持たないフリーな客」へのアプローチやリアルなイベントの開催等で、肌に触れる活動を大いに実施することが、必要になると思われる。組合としても大手化粧品メーカー（資生堂）との協働施策で売上向上を図っていきたい。	化粧品小売業
	3月は組合員数店が展示会を実施したが、来店者が前年より減少し売上も良くなかった。夏商戦に向けて顧客回りを強化していきたい。	機械器具小売業
	売上は、前年同月比で約21%増加。来館者数は約14%増加。全国旅行支援等のクーポン利用額が売上の約10%を占める。コロナ禍が沈静化の兆しを見せ、春休みを利用した旅行客が増加傾向にあるが、原材料等の高騰が高止まりを続け、電気代も前年比約45%増加し、経費の上昇が業績を圧迫し厳しい経営状況が続いている。	各種商品小売業 萩市
	2月より日曜日を休みにした結果、3月の供給高は前年比94.0%、来店者数89.1%となった。2022年度の前年度供給高は101.3%、来店者数は97.1%。マスクの着用が個人の判断となったが、来店客のほとんどがマスクをしている。	各種商品小売業 下関市
商店街	物価高騰が激しい。卵、鶏肉、食用油、燃料費などはあらゆる業種・業態の店に影響を及ぼし、粗利が低い商材の値上げはやむを得ない。値上げは消費活動を停滞させ、価格競争に強いEC業界、大手資本に裏付けられたディスカウンターへ消費が流れる。小刻みな値上げは悪影響を与え、一方で大幅値上げは消費停滞を招く。補助金をはじめとする公的な支援制度が合致する企業は凌ぐが、中長期的な解決にはならず、先行きが不透明。根本的に利益構造を見直すべきだが、営業しながらの改革はなかなか困難である。	岩国市
	暖かくなるとともに人出は増えたようだが、物価の上昇が消費の伸び悩みに繋がっているようだ。	宇部市
	アーケード内の飲食関係はあまり良い状況になく、ピザ店は閉店し、寿司店でも良い話は聞かれない。カレー店においては閉店したいが契約があるので辞められないとのこと。アーケード全般に良い状況ではない。	萩市
	暖かくなり、下関市のひなまつりイベントをはじめ商店街でもイベントが開催され、幾分買い物客が増えたように感じる。4月の海峡ウォークでは商店街も立ち寄り場所となっており、盛り上げていきたいと思っている。	下関市
サービス業	3/13からマスク着用が個人の判断になったが、美容業界ではほとんどの店舗で変わらず着用している。3月は例年通りの繁盛期で、他の月より20%～30%売上が伸びている。	美容業
	物価高の影響もあり、来店サイクルが長くなったようである。	理容業

	自動車の新車・新規台数が、登録車及び軽自動車ともにコロナ禍以前の水準に近づいてきている。特に、軽自動車では対前年で7ヶ月連続プラスに転じており、台数はコロナ前には及ばないものの、各社年度末が正念場。	自動車整備業
	例年より暖かくなるのが早まったのか、業界全体をみても衣替えの冬物衣類も昨年同月よりは多く出始めた。しかしながら、資材高騰や消費者離れからの不安材料も依然として多いため、手放しでは喜べないところである。	普通洗濯業
	コロナが収束傾向となり、飲食店の中でも居酒屋店は予約がなかなか取れない店舗もあり、湯田温泉に賑わいが戻ってきた模様。関係各位には感謝をしている。しっかりと利益を出せるように頑張りたい。	飲食業
	全国旅行支援により前年同月比で売上は162.8%、宿泊人員は163.7%の大幅増となった。2020年3月から新型コロナの影響を受けたが、ほとんどの施設においてコロナ前の状況に戻っている。各種経費が高騰している中で、旅館の価格転嫁は進んでいるが、ビジネスホテルの価格転嫁が進んでいない。この傾向は、当面変えることが出来ない様に思う。	旅館業 山口市
	2月の値上げの影響が主要施設の利用客が減少。全体の利用客としては変わらず推移している。気候も暖かくなり花のシーズンを迎えたが利用客の増加は見込めず、物価の高騰により収益状況は厳しい状況が続いている。	旅館業 長門市
	宿泊客がコロナ以前に戻ってきている施設が多い。全国旅行支援も延長になり、春休みは平日も満室が多い。人手不足は依然として解消されない。	旅館業下関市
建設業	中電への工事申請109件(当支部84件)、前年同月104件(同86件)。太陽光発電への申請28件(前年31件)、オール電化申請56件(前年81件)。LED街路灯への切り替え・新設申請16件(前年28件)であった。	電気工事業
	令和5年夏より回復が見込まれるが、それ迄は工事量の不足が続く。技能者数の減少・建材価格の上昇を背景に見積単価・契約単価が上昇し始めた。	左官工事業
	現在は民間の小規模工事を実施しているが、3月は仕事がなかった。令和4年度は民間工事を含めても全般的に仕事量が少なかった。人手不足が解消せず、益々深刻化している。	管工事業
	土木建設業界では、前年同期に比し、受注額、件数ともに減少している。年間を通して比較すると7割程度になる模様。令和5年度の公共事業費は前年度並みではあるが、地方への波及はどうなるだろうか。業種別にみると好不況の格差が広がっている。物価上昇を吸収できる賃上げをと春闘が進んでいるが、地方においては実感に乏しい。	一般土木工事業 柳井市
	3月の受注高は、対前年同月比135.1%。今年度の累計では、対前年比89.3%。	一般土木工事業 萩市
	2月と状況は変わらない。	一般土木工事業 長門市

	<p>瓦の仕入れ価格並びに副資材関連が、再値上げの方向で進んでおり、先行きが極めて不透明な状況にある。上部団体の全日本瓦工事業連盟も会費の値上げの方向であり、会員に転嫁せざるを得ない状況である。新築着工物件においては、屋根材として瓦以外の採用が増加しているため屋根工事業界のみならず、瓦メーカーともに大変厳しい状況が続いており、先行きが見通せない。</p>	屋根工事業
	<p>加工量に少し浮き沈みはあるが、工場稼働率は高い様子。新規の見積が少ない状況で秋以降の仕事があるか先行き不安との声がある。</p>	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	<p>輸送関係は国内向け、輸出向けともに3月半ばより下向きで推移していたが、後半よりやや活発化し輸送量は増加したが、対前年比では減少となった。運転者の高齢化で人材不足もその一因となっている。燃料関係は前月と同額であり、輸送と需要とのバランスが特に悪いように見受けられる。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>自動車関連の組合輸送取扱高は前年同月比で30%のプラスとなったが、前年度はコロナ禍で特に落ち込みが激しかったこともあり、コロナ前の水準には遠く及ばない状況である。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>輸送に関しては、運賃の値上げ交渉を継続的に行っている。倉庫保管案件は引き続き好調である。4月からの時間外労働の割増賃金率引き上げについて、残業時間の把握・業務の効率化を図っている。雇用に関しては、人が異動する時期であるが、まだまだ人員不足が続いている。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+68.0%（令和5年2月1日～令和5年3月20日分）となった。2月1日～28日分は+82.3%、3月1日～20日分は+53.5%。前々年度比では、それぞれ+51.3%、+46.9%、+56.9%になった。大幅に回復したように見えるが、前年、前々年が大幅に減少したためであり、平成30年度2月分比（コロナ禍以前）では▲38.9%。まだまだ回復しているとは言えない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。2月分については、周南+86.8%、下松+184.0%、光+143.7%、防府市地区が+34.2%で、組合員の全域では+86.9%、地区外（員外）+47.1%、合計+82.3%(+5,541千円)である。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上がり（前月697.5/トンが今月765.0\$/トン）、フレート（輸送）コストも上昇（前月9,400円/トンが今月10,000円/トン）した。為替は円安（前月131.23円/\$が今月133.75円/\$）となり、燃料単価は前月よりさらに+2.1%上がった。前年3月比は+6.5%と高騰している。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。高齢乗務員が退職し、その補充ができない状況。Withコロナで、行動規制が緩くなり、需要が回復傾向にあるが、まだコロナ前（平成30年度以前）の需要の▲43%付近であり、燃料価格他の諸物価、経費が増加する中、たいへん厳しい経営状況の様様。運賃改定の動きがあるが、山口県内の認可はもう少し遅れそうである。</p>	一般乗用旅客 自動車運送業

	3月は多少回復傾向にある。4月からは、持ち直してくると期待している。	港湾運送業
その他	業界の動きは停滞したままである。介護業界の人員不足は変わらず、募集もハローワークや情報誌に多数掲載されている。新卒採用が見込まれる3～4月にかけては、外国人技能実習生だけでなく一般の中途採用の雇用枠も減るのではないだろうか。今後の見通しとしても、介護業界の人員不足は継続するが、経費の掛かる外国人技能実習生の雇用を考える施設は少なくなってくると思われる。	介護事業